



# 『ヒューマン・ハーバー“T.O”』

“Only as for giving it a way”

〔“偉人間交流会”・『語ろう会』会長：小川 正〕

## 「中国」を、一言では語れないよ！

2007/05/19

### ●2006年12月1日の、出来事です。

北京より上海へ移動する途中、北京市内から空港に向かう車中で携帯電話のカード料金切れで、受発信ができなくなりました。

北京空港での搭乗に時間的余裕がなくて、上海(虹橋)空港で電話カードを購入してチャージすればと良いと考えて、上海空港に到着し電話カードを買おうとするのですが、無い「没有(メイヨー)」・無い「没有(メイヨー)」と言われて意味がわからなく、迎えていただく友人にも連絡が取れずに予約しているホテルに向かったのです。

ホテルのロビーで友人が待つて居てくれました。そして、まずは食事にと上海なのにホテル近くに在る、なぜか?“香港料理”チェーン店に案内頂きましたが、夜9時を過ぎているのに並んで順番待ち状態の人気店でしたが、特別美味とは感じませんでした。

とはいえ、無事に友人と出会えましたので一安心でした。

さて、携帯電話の話ですが「電話が通じないので、どうしたのか心配しながらホテルで待つのが一番と、考えたのが良かった」と友人が言うのですが、なぜ上海での電話カードが買えないのかは疑問のままになりました。

日本のカード式携帯電話では、電源バッテリーの残量があれば発信は出来なくても、受信だけは可能なのですが中国では受発信共に駄目なのです。

翌朝、ホテルにても無い!「没有(メイヨー)」と言われて、待場での購入を試みるのですが、やはり無い!「没有(メイヨー)」と言われて、やっとの事で答えにたどり着いたのです。

北京で購入した携帯電話のチャージは、北京で販売されている“電話カード”でしかチャージできないのです。どうしても、上海で“電話カード”を購入して利用可能にするには、改めて上海エリアの電話番号を登録して“電話カード”チャージして下さいなのです。その場合は、北京に戻り北京で利用すると市外通話料金換算されると言うのです。

\* 日本的に表現すると、道州制が確立していて、日本人では考えられない事でしょう。

ことさように、日本の生活環境をそのままに中国事情を判断することは、難しいことですし無謀とも言えると私は感じております。

ツアーで観光旅行される方や大手企業で出張される方には、体験されるチャンスが無いかも知れませんが、私が関与する現地のファミリー企業の環境や大衆の生活環境には、日本とは大きな違いを私自身が体験してきております。それらの事例を数例取り上げて書き加えます事で、中国を理解していただく上でお役に立つと幸いです。

### ●北京のファミリー企業の事務所での体験です。

総経理(日本で言うと:代表取締役)が外出しておりまして、私とスタッフがミーティング中に突然に電気が消えるのです。ブレーカなどを点検するのですが、問題点が見つからないので明るい窓際に移動してミーティングを続けているうちに、総経理が帰社しまして「あっ!忘れていた。」と言うのです。そして、直ぐに外出したのです。10分ほどで再び帰社すると、数分すると電気が突然点くのです。

何故か、分かりますか? 支払っていた電気代を消費した事で、電力供給がストップしたのです。北京市内マンションでは電気代は、前払いで支払った電力分を消費すると遮断されるのです。ただ、事前に電気料の支払通知があるそうですが、この度のように忘れると突然に電力遮断されるのです。IT関連機器などは、突然シャットアウトされると大変な事になりますよね。ビデオ録画やDVD録画も中断になり、ガッカリの世界になりますね。

### ●国内航空券に往復割引制度が、存在しません。

根底に潜む原因は把握できておりませんが、日本では各種交通機関での往復割引は既定の事実が当然のごとく存在しておりますが、中国内での航空移動で同一航空会社利用でも割引制度も無ければ、出発地での往復発券をしてもらえない体験を致しました。

更に、往復運賃設定も存在しません。それぞれの片道運賃表示となっています。予約番号をもらって帰路便チケット発券は現地で受けるのです。これも、道州制の影響のように思えるのですが、発券地の売上に計上されるのでしょうか？ 余談ですが、当日に航空券の購入についても刻々と値段が変化するのはですよ。これも体験ですが、上海のホテル内旅行代理店にて安いチケット購入を求めて検索してもらおうと、搭乗率により値段が変化して30分前には20%引だった便が、突然50%引情報が流れるのである。・・・これは凄いよね！

まだ、凄い事もあるので。利用便・利用機種によって、座席の前部&後部位置によって運賃が3段階・5段階・7段階に分かれていたりするので。

#### ※総括すると、

大衆向けは殆どが『前払い制度』で、『後払い制度』は考えにくい国情と思われる。

北京の地下鉄にしても「3元(約50円)」で、1駅乗車でも40分の長距離乗車でも1率で利用できます。入場改札だけで、出場改札管理は全く無いのです。・・・2008 自動改札機に！

クレジット・カードにしても大衆には普及しておりませんし、上海の商店にしても地域限定カード利用可のショップが在っても、日本のような後払い決済カードの取扱は殆ど見あたりません。

基本的に「払った分だけ利用&使用できて、利用&使用分を後払いする金融信用を持ち得ない大衆」の中国です。ビジネスでも大手企業は別格として、中小企業レベルでの日中交流は『前払い決済ビジネス』で、考えるべきだと私は思います。

中国に限らず、それぞれの国情・環境が異なりますので、日本円をばら撒く観光旅行は良いとして、他国から代金を得ることは肌色が同じでも白人社会と同様に、十分に相手国情・慣習・環境を把握した上でお付き合いされることをお勧めします。

「中国・中国」と中国を一言で表現する日本人が多いですが、一言で語れるものではないことをお分かり頂けますよね。

日本の26.3倍の広大な面積。

世界の4人に1人が、中国人。

中国、国内の言語と民族が多数存在。

中国人とは、「良い人間関係」の構築が不可欠。

中国の常識と日本の常識の、差異を理解。

#### ※こんな事も中国では、あるのですよ。

中国では戸籍が大きく2つに分けられているのです。

「農村戸籍75%」と「都市戸籍25%」

「農村戸籍＝農民」は、住宅・医療・年金等の享受する立場に無く、全て実労で稼いで全額自費で支払うのです。

戸籍は生まれた瞬間に決定するが、一般的には母親の戸籍を受け継ぐので、当然の如く「都市戸籍:男性」が「農村戸籍:女性」と結婚する事は本当に珍しいことになります。

「農村戸籍」から「都市戸籍」に変わるには、幾つか条件はあるが至難の技と言えます。

ご存知でしょうが、土地は全て国有でマンション分譲など都市部では盛んですが、その土地は国からの借りたもので北京の物件などを見ると「50年保証」とうたわれておりました。そして、北京では頭金だけあれば簡単にローン融資が実行されてマンション購入できるので、日本の住宅ローン審査の厳しさは理解できないと、北京の友人は言います。また、日本の人気マンション獲得には抽選で購入権を獲得する必要がありますが、北京では早い者勝ちで現金で頭金を支払った者が購入できます。そこで、多少の資金を持つ人は建築中の優良物件をいち早く購入して、完成入居時には価値上昇していて他人にローン返済月額より高額で賃貸して、資産の増強をはかるのです。こんなこと、日本では出来ませんよね。

**中国だけでなく、「他国のことを一言で語る日本人」傾向は、改めるべきではないでしょうか。**

日本のテレビ報道は、『報道番組』としての企画・構成されたものが殆どですので、鵜呑みされないように注意・注意です。